

## ごあいさつ

本日は御多忙の中、御来場いただきありがとうございます。

この度は、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の首席チェリストとして長年御活躍されたアダルベルト・スコチッチ氏と室内楽を愉しむ機会を得ました。

秋の日の素晴らしい思い出の1ページとなりますよう、今夜は、皆様とともに共有できる時間を出演者一同楽しみにしております。

このコンサートを開催するに当たって、御尽力くださったすべての方々に心より感謝を申し上げます。

岡田洋子・川畑由紀子

## プログラム

---

### シューマン

アダージョとアレグロ 作品 70

P f. 川畑 由紀子

### バッハ

無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調 BWV 1009

- I. 前奏曲
- II. アルマンド
- III. クーラント
- IV. サラバンド
- V. ガヴォット I/II
- VI. ジーグ

### ベートーヴェン

ピアノとチェロのためのソナタ第3番 イ長調 作品 69

P f. 川畑 由紀子

————— 休 憩 —————

### レーガー

無伴奏チェロ組曲第2番 ニ短調 作品 131 C

### プロコフィエフ

チェロとピアノのためのソナタ 作品 119

P f. 岡田 洋子

## 曲 目 解 説

### ◆ シューマン：アダージョとアレグロ 作品 70

1849年に作曲され、元々はホルンとピアノのために作られた。最初は「ロマンスとアレグロ」というタイトルが付けられていたことからわかるように、アダージョの部分は独奏楽器とピアノの会話を持つロマンティックな序奏部を形作っている。アレグロ部分は三部形式からなり、中間のテンポが緩む部分でアダージョの旋律が回想される。

### ◆ バッハ：無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調 BWV 1009

バッハは無伴奏組曲を6曲作曲しており、ケーテン宮廷音楽団長時代(1717年～1723年)に作曲したらしいが、長年忘れ去られていた。1904年スペインのチェリストであるパブロ・カザルスにより再発掘されて以降、チェリストにとってこの組曲はバイブルとなっている。

どの組曲も6曲で編成されており、その音楽性の深い解釈や表現するための高い演奏技法が要求される難曲である。

### ◆ ベートーヴェン：ピアノとチェロのためのソナタ第3番イ長調作品 69

ベートーヴェンは5曲のチェロソナタを作曲しているが、最も広く知られているのがこの第3番である。「傑作の森」と言われるベートーヴェンの中期を代表する室内楽曲であり、大変充実した内容を持つ。チェロの扱いは、従来の作品よりチェロの持つ可能性を大きく拡張したものとなり、この時期のベートーヴェンの作曲技法の高さを示している。3楽章からなり、第1楽章はソナタ形式、第2楽章はスケルツォ、第3楽章はアダージョの序奏部からアレグロビバーチェに移り、華々しく曲を締めくくっている。

### ◆ レーガー：無伴奏チェロ組曲第2番 ニ短調 作品 131C

レーガーは1873年バイエルン王国で生まれ43歳で急逝したオルガニスト・作曲家だが、多作家で管弦楽、室内楽等多数のジャンルにおいて生涯1,000曲作曲した。

無伴奏チェロ組曲は全3曲作曲しており、第2番は当時著名だったドイツのチェリストのフーゴ・ベッカーに謹呈された。4楽章からなり、かき鳴らされるプレリユードとラルゴの二つの楽章のリズムが有名である。

### ◆ プロコフィエフ：チェロとピアノのためのソナタ 作品 119

ウクライナ出身で自身も優れたピアニストだったプロコフィエフは、民俗音楽にこだわり、新しい音楽を追及し、様々なジャンルで作曲し、音楽芸術に新境地を切り開いた20世紀を代表する作曲家である。

このチェロソナタ作品119は、晩年の1951年にチェリストのロストロポーヴィッチの協力の下で作曲され、同氏とリヒテルのピアノで初演された。曲は3楽章で構成され、第1楽章はアンダンテで自由なソナタ形式、第2楽章は活発なスケルツォ、第3楽章はアレグロ・マ・ノン・トロppoで、調音、無調音を交錯させたハーモニーで全体的に多彩な音色を展開している。



## アダルベルト・スコチッチ

マンハイム生まれのオーストリアのチェリスト。代々音楽一家で、指揮者兼作曲家の父が、彼の最初の教師だった。ウィーン国立音楽大学で Richard Krotschak 教授に学び、首席で卒業、その後、Enrico Mainardi 氏や André Navarra 氏に師事した。

1961 年ジュネーブ国際コンクールで入賞し、1963 年ウィーン国立歌劇場管弦楽団及びウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェリストとなる。

1970 年に Gerhart Hetzel が創設したウィーン室内合奏団のチェリストとして、ウィーン、ザルツブルグ、ヘルシンキ、ケルンテルン夏音楽祭、バイルート等々、ほとんどすべての国際的な音楽祭で演奏した。

約 10 年前に、ソロ活動や室内アンサンブルやウィーン音楽院での教授に専念するため、オーケストラでの演奏活動に終止符を打った。

レコードや CD を約 30 枚録音している。Elisabeth Leonskaya, Jörg Demus, James Levine 等、著名なピアニストと共演している。ソリストとしてまたアンサンブルで、ヨーロッパ、北アメリカ、日本、オーストラリア、ニュージーランドなどでコンサート活動し、ウィーン交響楽団、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団、ブラチスラバ放送楽団（スロバキア共和国）、スロベニア室内交響楽団、大阪交響楽団、モンペリエ・フィルハーモニー交響楽団等と共演した。

ヨーロッパや日本（霧島国際音楽祭）ではチェロと室内楽のマスタークラスを複数担当し、その生徒で構成される室内交響楽団で、室内楽やソロパートを演奏した。才能に満ち、前途有望な若い演奏家、例えば、フィンランドの合奏団「Capriccioso」などと、一緒に演奏することを楽しんでいる。

カサド・コンクール（スペイン）、D. ポッパー・コンクール（ハンガリー）、マルクノイキルヒェン（ドイツ・）等々、様々な国際的なチェロコンクールで審査員として招かれた。



## 岡田 洋子

エリザベト音楽大学卒業後、室内楽、合唱等のコンサートに出演。ピアノを佐藤恭子、松井芳子、末永雅子、柴田美穂各氏に師事。現在、室内楽等の演奏活動やサロンコンサート等の企画開催を行っている。ピアノ教室 D O L C E 主宰。



## 川畑 由紀子

エリザベト音楽大学器楽学科ピアノコース卒業。山内孝子、佐々川久子、長澤大子、柴田美穂、岡崎悦子各氏に師事。現在、コーラスグループ フラウエンちどり、サロンコーラス伴奏者。ソロ、アンサンブル、伴奏などの傍ら、ピアノ講師として後進の指導にあたる。

# アダルベルト スコチッチ チェロコンサート

～元ウィーンフィルハーモニー管弦楽団首席チェリストを迎えて～

2015. 11. 6 (金)

OPEN 18:00

START 18:30

廿日市文化ホール さくらびあ 小ホール

主催：DOLCE

後援：エリザベト音楽大学・中国新聞社